

へみんなで築こう 人権の世紀

考えよう 相手の気持ち

未来へつなげよう 違いを認め合う心

いよいよ今年はオリンピックイヤーです。世界中からお客さんが来たり、テレビなどで放映されたりして日本に注目が集まります。では、人権という側面から見ると、日本は世界の人にとってどのように映るのでしょうか。

昨年は、障がいを持つ人の人権に関する研修会が目を引きました。法の整備が進んだことだけでなく、オリンピックやパラリンピックの影響もあるのかもしれない。しかし、一口に障がいを持つ人といってもさまざまです。

研修会の中で、全身やけどを負い、長期の入院や手術を繰り返した人の言葉が印象的でした。

「人はなぜ生きているのか。人が亡くなると悲しむ人がたくさんいる。生きていれば誰かを悲しませない。生きている。この当たり前の日常。人は生きているだけで素晴らしいと思えるようになった」というもの。別の研修会では、障がいを持つ子どもの成長の様子が話されました。他者からの介助は当然必要ですが、笑ったり怒ったりする、ご飯を食べる、風呂に入る、体を動か

すなど、誰もが同じ日常があることを気付かされました。

何らかの理由で人は障がい者になることがあります。障がいを持つ人も社会の仲間という気持ちで、ハンディを少しでも軽減できるような社会の仕組みをつくるのが大切だと改めて気付かされました。東京2020オリンピック・パラリンピックを、障がいのあるなしにかかわらず、本当のスポーツの祭典として迎えられるといいですね。

問い合わせ 生涯学習課社会教育係 ☎内線3322へ



そりや雪だるまコンテスト、ストラックアウトや宝探しなどで雪と遊ぼう。

とき 3月8日(日)午前9時～午後3時

ところ 県立森林公園「21世紀の森」森の広場

問い合わせ 「21世紀の森」雪まつり実行委員会(利根沼田森林組合内) ☎2127へ

ドイツ人国際交流員ティーネの

いいね！ドイツ

vol. 15



クリスティーネ・パウアー

国際交流のお手伝いをします。
お気軽にお問い合わせください。
問い合わせ 企画課政策調整係
☎内線4031へ

バレンタインデー

ドイツも2月14日はバレンタインデーです。女性だけでなく、男性もチョコレートやプレゼントを贈る習慣があるので、ホワイトデーがありません。プレゼントは赤いバラやチョコレートが定番ですが、ジュエリーやロマンチックな1泊旅行なども人気です。思いを寄せる男女がプレゼントを贈り合うカップルのための日なので、日本で一般的な「本命チョコ」や「義理チョコ」というカテゴリーはなく、告白したりされたりというドキドキ感もありません。

バレンタインデーの存在に反対し

て、この日は不要と思っている人もいます。パートナーを喜ばせるのはバレンタインデーに限らず、1年に365日もあるからです。商売主義と思って乗らない人もいます。



ティーネがバレンタインデーにもらった花束